



海外派遣員レポート



-第2弾 韓国・忠清北道の現況-

前号からはじまりました山梨県から海外へ派遣されている職員のレポート。

今回は韓国・忠清北道からです。

「忠清北道よりアンニョンハセヨ」

山梨県企画部県民室国際課 天野陽子

昨年4月から赴任しています。こちらの生活にもすっかり慣れ、最近では韓国人らしくなったと言われています。市内で道を聞かれたり、発音のせいで「釜山の方の出身ですか？」などと尋ねられるのもそのせいでしょうか。

ここ忠清北道は、朝鮮半島のほぼ中央に位置する人口約150万人の道です。唯一の内陸道であること、美しい自然に恵まれていることなどが山梨との共通点です。道庁所在地の清州市は、60万人が集中する中堅都市であり、市内では新しくデパートがオープンしたり、多くの人々が夜遅くまで商店街を歩き交ったりと、韓国の景気を反映するように活気に満ちています。交通は、主に鉄道よりも市内・高速バスが充実しており、清州と全国主要都市を結んで走っています。

右から2番目が筆者



市内の様子



工業団地の様子

道では今、3つの観点から地域の活性化に力を入れています。一つ目は、観光地を含む東部観光レジャー地区の充実、二つ目は、農業が盛んな南部地域の特産化、三つ目は、産業団地を含む先端産業ベルトの整備・推進です。近年では、IT（情報通信）、BT（生命工学）産業の整備に重点を置き、梧倉（オチャン）産業科学団地では、交通の便のよい立地条件や電力水力等の供給率、敷地内施設の充実を軸に企業誘致を進めています。中でも、16万5千㎡を外国人企業専用団地とし、様々な優遇措置を講じているのが特徴です。既に日本企業の入居も一社決定しています。文字数の関係上、優遇措置の内容を紹介できないのが残念ですが、興味のある方はご連絡ください。

韓国での生活でいくつか気づいたことがあります。それは、日本に比べてクレジットカードを使った買物が圧倒的に多いということと、テレビやインターネットでのショッピングが盛んだということです。どんな店でも現金よりカードで支払うの方がずっと多く、最近では携帯電話とカードが一体となった商品も発売されました。また先日、日本の商品をインターネットで購入した人に、日本語の使用方法を翻訳してあげたこともあります。カードを頻繁に使う理由の一つは、カードを使うと所得税控除を受けられるという制度にあるようですが、通貨制度にもあると思います。韓国の通貨は1万ウォン札までですが、日本円で約千円です。日本でいう千円札までしかない状態を考えると、カードを使いたくなる気持ちもわかります。現金派の私としては10万ウォン札が発行されればいいのになあ、と思います。